

# 植 物 散 策 記

林 幸 子

48年4月14日

フクジュソウの花が開く頃である。

勝山市の北谷へ出かける。山あいには、まだ残雪がある。赤い花のミヤマカタバミが、林床いつばいに咲いていて美しい。

目的のフクジュソウは杉林の切れめや、日光がさしこむあたりによく生育し、見事な群落を作っていて、花が咲き始めている。

みんな大喜びである。正月の一芽〇円のフクジュソウからは想像もできない見事な光景である。ふまないように歩きまわる。

まだ咲き始めて花も大きく美しい。このすばらしい自生地を、いつまでも大事に残しておきたいと群落の中に立つて思うのだつた。さわがれて姿を消していく自生地の山野草の話をよく聞くが、その二のまいにならないことを祈る。

48年5月26日

旧足羽町の篠尾の山にあるラン科のもので疑問に思っていた一品をさがしに行く。

杉林の下草の中でようやく見つけ採集して帰る。調べて見たらセイタカスズムシソウであることがわかった。緑がかつたうす紫の花は目立たない。このセイタカスズムシソウは、本県では未記録のものであるとのこと。

この日同じ谷でジガバチソウも採集できたのも思わぬ収穫であつた。

人里近い谷間に見のがされていた植物があつたことは、これからの歩きに喜びを与えてくれる。

47年6月18日

敦賀の池の河内のヒメザゼンソウを見るために出かける。

ヒメザゼンソウは春早く柔かい食べられそうな葉を出す。この姿を若杉氏の庭で見せてもらつてからぜひ見たいと思つていたのだ。

池の河内の湿原のそばの畑のふちがこのヒメザゼンソウの生育地である。草の繁つている所をかきわけてさがすが、容易に見つからない。石がつみかさなつている間にやつと見つかる。暗紫色の小さいかわいい花である。さつそく石をとりつけて根を掘つていく。小さい花のわりに意外と太くて長い根である。絶滅させては申しわけないと思ひながら、二株ばかり丁寧に掘り取る。

葉のある頃はウバユリとまちがいそうだし、花の頃は葉はなくて、土の中にすいこむようにして咲くこの花は、ぼんやり歩いていたのではとうてい見つけることはできない。すばらしい珍品にあえて、楽しい一日だつた。

47年7月23日

三十三間山へ採集に行く。

あいにくの天気で雨が降りだしそうである。谷間の道を登つていくと杉林の中に白い大きい花のかたまりを見つける。何だろうととびこんで見る。葉の先が二裂しているユキノシタ科の植物はどうもギンバイソウでないだろうか話し合う。嶺南にあるという記録はあるが、はじめて見るものである。気をつけて歩いていくと、しめつばい林床や谷川べりにたくさん生育している。珍しい植物にあえてうつとうしい天気もふつとんでしまう。同じ場所にサクラソウ科のミヤマゴボウの実をつけたものも見つかる。

採集しながら嶺線に出てみたら山の上は大変な風である。びわ湖から吹きあげてくる南風に立って歩けないくらいであった。

47年11月19日

美山町蔵作の山へ出かける。

紅葉もおわりに近い。白樺への道を登つていくと北向きのしめつばい大きい岩のこけの中に、ノキシノブに似ているシダを見つける。

裏を見ると孢子のうの形が長楕円形で上部の巾の広い部分に集まってついている。持つて帰つて若杉氏に調べてもらおうとヒメサジランであることがわかった。このヒメサジランと同じ岩に小さいシダのカラクサンダもついていた。あまりに小さくうつかりみおとしているシダである。